H30学力向上アクションプラン（由布市）

目標及び指標

【目標】【児童生徒の学力に関する目標】
〇学力調査における正答率の向上
〇学力調査における達成率の向上
〇学習規律の具体像の設定
〇学校・学級間格差の減少

【学校等が抱える組織的・構造的な目標】
〇学習規律の確立（1学期）　＊ブロックごとの具体像作成
〇授業改善の促進（2学期）　＊授業モデル（新大分スタンダード）の浸透
＊グループワークの目的の明確化
＊児童・生徒による授業評価の導入
＊教科部会の充実（回数の増加と内容の焦点化）
〇補充学習の充実（3学期）　＊由布市基礎基本系統表沿って
〇家庭学習の充実（小中連携による組織的な取組）

達成指標	取組指標
〇学力調査における ・正答率全国比＋　全教科 ・達成率県比＋　　全教科	①補充学習の計画作成と報告書提出（全学校　計画3学期　報告1学期） ②小学校における学習系統表による定着度の見取（全小学校　3学期） ③家庭学習の充実（小中連携した家庭学習の重点課題および確認方法設定　1学期） ④各種調査における、分析フォーマットの作成（県調査・国調査） ⑤調査をもとにした学校の取組の構築（学力向上会議にて提案・報告）
〇学習規律の確立 ①話を聞く態度の成立 ②ペア活動やグループ活動の成立 ＊授業観察（管理職・市教委） それぞれ全クラス90%以上 ＊全国調査アンケート　子どもによる確認（県比＋）	①Q－U調査をもとにした学級経営案の作成（全学級） ②学習規律確立のための学校独自の取組の作成（全学級） 取組の実施：担任とその検証：管理職（全学級）　重点1学期末段階 ③中学校校区ごとに、学習規律の具体像の設定 モデル作成：学力向上支援教員　提案：ブロック小中連携協議会
〇授業改善の推進 ①新大分スタンダードの実施 ＊授業観察（管理職・市教委） それぞれ全教員90%以上 ＊全国調査アンケート　子どもによる確認（県比＋）	①授業改善のポイントの説明（市：3～5月　市教振＋全校校内研） ②小学校国語・算数、中学校数学・英語・国語の教材検討会 ③学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員による授業公開（1人3回） ④指導主事・学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員による授業観察（全小中学校） ⑤授業改善のポイントに添った互見授業（全校実施） ⑥校長による授業観察強化月間の取組（年間2回実施） ⑦指導主事による校内研究会の参加　（授業改善5点セットへの指導　全学校）

行動計画

①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について

〇各教科における授業モデルの構築
小学校：国語・算数・英語を中心に（提案：学力向上支援教員等）　単元プランの形で
中学校：各教科ごと（提案：国語・数学・英語：学力向上支援教員等　その他：授業者）
〇各学校における新大分スタンダードの研修会の実施（講師：指導主事）
〇モデル授業の公開（学力向上支援教員等＋市教振発表：挾間中学校　全教科）
〇事務所訪問・市教委訪問を活用した「めあて」「課題」「振り返り」等の実践的な研修の設定
〇校長等を中心にした授業観察による、個別の支援と進捗状況の確認

②「中学校学力向上3つの提言」に関して

①新大分スタンダードに基づく授業改善
〇めあてと振り返り、課題とまとめの意味や用い方を整理する　・各校における研修会
〇事例に応じて研修を個別・教科別に進める・市教委、事務所等の訪問・研究会等の利用
〇板書指導案の活用、板書との一体化のために学習プリントの工夫、授業の流れの提示
〇グループワークの目的の明確化　＊研究テーマに据える（次年度研究の中心）　・2学期各学校　説明会実施済み
②生徒による授業評価の導入（第2回事務所訪問では見通しを説明）（小学校兼）
〇生徒による授業評価の活用の目的をはっきりさせる　・すでに中学校では実施中
③組織的な家庭学習の研究　（小学校兼）
〇全教職員へのアンケートによる実態把握（自己申告）＊10／16
〇内容の工夫・改善　　・自主学習の内容及び出し方（小学校との共有）　・補充学習の内容及び出し方
④3中学校合同教科部会の実施（2学期中に1回は実施）
〇月1回　水曜日（全教科部会実施）次年度は7回開催予定
〇支援教員のいる教科のみ　別実施
〇先行している国語科・英語科の取組を参考
〇匠の会の開催（教育委員会主導）　・夏休みに教材検討会として実施　・若手教員の授業の困りに応じた相談会を開催
⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承
〇 基本的には、人数が多い教科に限る
〇 人事配置を考えながら、挾間中に中心に行っていく
〇 支援教員の教科では、庄内中も湯布院中も検討　・参考資料：挾間中学校資料

③新学習指導要領の実施に関して

※小学校外国語への対応（必須）
〇基本的な方向性
平成30年度より先行実施を行う
H30年度　3・4年（15時間）　5・6年（50時間）（月曜6時間目を隔週で活用）
H31年度　増やす方向で検討中
〇検討及び周知の方法
・校長会（毎月）　・外国語活動担当者会（学期ごと：年3回）
〇校内研修について
・新学習指導要領に対応した研究授業の開催（由布院小　2学期）全小学校1名以上参加
・それを受けて各校における研修および研究授業の開催（2学期・3学期）
〇市による支援
・由布市版　教育課程（モデル）の提示
・音声教材・地域教材の開発（市教委＋ALT）
・評価例の提示（振り返りシート等）
・「書くこと」に対する導入方法の研究
※学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について
〇由布市の教育目標の設定および学校の教育目標の設定支援シートの配布（12月中）
〇学校の教育目標設定の説明（12月校長会）
〇学校の教育目標設定を受けた総合的な学習の時間の教育課程作成（12月校長会～）
・参考資料：学校の教育目標設定支援シート
※地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）について
〇30年度より全学校導入予定
※市独自の支援
〇市総合学力調査　小学校3～6年　国・算・理　　中学校1・2年　国・数・英・社・理
〇市独自支援員　　小学校　15名　　中学校　　8名　（特別支援教育　10名を含む）
〇Q－U調査　　全小中学校　年2回
〇共有フォルダを活用した成果物の提供